



15
1405
2

3

歌詞考

目録

○みたもの あゆ 一丁右下

○ ホ 銚の幸 サキ 二丁右

○ い え え ゆ あ え あ 三丁左

○ タ 魂祭 ツリ 四丁右

○ か ぢ 緒 た え 四丁左

松籙叢書 歌詞考 目録

昭和四年二月六日寄
高田早苗氏

高田早苗氏蔵

しや緒ヲ。しや緒ヲ。五丁左

梶カキ。かい。鮓タキたい。六丁右

糰餅ツガリ。六丁左

○あめはちれ袋フクロ。九丁右

春袋ハレフクロ。十一丁右

○あさ木イシラの柱。同上

荊イラ。十二丁左

浅黄色アサギイロ。十三丁右

○あぐさ。十三丁左以下

あぐさ草履ガウリ。十五丁左以下

半物草ハンモノグサ。十六丁右

尻切シキレ。足半草履アシナカガウリ。十六丁左

はし。十八丁右

はし。同上

○長殿ナガトノのひたられミクラぬミクラ 十八丁左

大蔵省オホクラヅカサノナカトノ長殿ミクラの御倉ミクラ 十九丁右以下

左京サキョウ右京ミナト 廿丁右

○いぬイヌぬヌぬヌのノ 廿丁左

ぬヌぬヌぬヌのノ草クサ 廿三丁左

ぬヌぬヌぬヌのノ柳ヤナギ 廿三丁右

ぬヌぬヌいぬイヌぬヌいぬイヌうぬウヌぬヌぬヌ名義ナギ 廿三丁右以下

いぢりイヂリぬヌ 廿四丁右

○もモ鷹トウのノこもコモはハちチごゴぬヌ 廿四丁左

菰コモはハちチ 廿五丁左以下

荊倉ハラグロ 同上

引用書目

古事記 三卷

日本紀 卅卷

古語拾遺 一卷

類聚國史 殘缺六十三卷

權記 十五卷。寫本。
權大納言藤原行成卿。

應仁別記 一卷

古事記傳 四十四卷
本居宣長

日本紀通證 卅五卷
谷川士脩

續日本後紀 廿卷

日本紀略 殘缺廿五卷

源平盛衰記 四十八卷

室町殿日記 廿卷。寫本。
橘村長教。

延喜式 五十卷

拾芥抄 三卷
洞院公賢公

朝野群載 殘缺廿三卷。寫本。
三善為康。

新撰字鏡 一卷。僧昌住。
昌泰年中成。

類聚名義抄 十卷。
寫本。

以呂波字類抄 十卷。
寫本。

古訓玉篇 卅卷
古寫本

祝詞考 三卷
賀氏真淵

大内裡考證 五十六卷。寫本。
裏松左少辨。此世入道固禪。

新撰姓氏錄 三卷
弘仁五年奏覽

倭名類聚抄 廿卷

字鏡集 十卷
寫本

節用集 二卷

物類称呼 五卷

倭訓栞 卅六卷
谷川士清

本草啓蒙 四十八卷
小野蘭山

万葉集抄 廿卷
仙覺律師

拾遺集 廿卷

千載集 廿卷

新古今集抄 四卷
東常縁

續古今集 廿卷

集古圖 廿八卷。寫本。
藤井貞幹

万葉集 廿卷

後撰集 廿卷

詞花集 十卷

新古今集 廿卷

新古今集增抄 廿卷
加藤盤齋

玉葉集 廿卷

續後拾遺集 廿卷

八代集抄 五十卷 北村季吟

廿代集頭書 五十六卷。寫本。契沖。

美濃家裏 八卷 本居宣長

日本紀竟宴歌 二卷

古今六帖 六卷

新撰六帖 六卷

夫木抄 卅六卷

永久百首 三卷。一名次郎百首。

百人一首 一卷 定家卿

百人一首抄 一卷。寫本。宗祇

百人一首拾穗抄 四卷 北村季吟

百人一首改觀抄 三卷 釋契沖

百人一首初學 五卷 賀茂真淵

小倉の山 一卷 本居春庭

宝治河百首 五卷

後京極殿鷹三百首 一卷

定家卿鷹三百首 一卷

木柴比雪 四卷 渡邊重名

龍山公鷹百首 一卷 近衛前久公

一條大納言歌合 一卷 寫本

調度歌合 一卷

年中行事歌合 二卷。一名関白家五十番歌合。貞治五年十二月廿日。

曾丹集 一卷 曾根好忠

凡河内躬恒集 一卷

散木奇歌集 十卷 俊賴

玉藻草 一卷。或号相摸家集。

惠慶法師集 一卷

月清集 四卷
後京極權政良經公

土御門院御集 三卷

願德院御集 三卷
号紫禁和歌草

李花集 二卷
宗良親王

慕京集 一卷或二卷
太田道隆

土左日記 一卷
紀貫之

蜻蛉日記 三卷
右大將道綱母

狭衣草子 八卷

轉寢記 一卷
阿佛丘

十六夜日記 一卷
阿佛丘

女房私記 一卷
馬本

物草太郎草紙 一卷

奥義抄 三卷
藤原清輔

色葉集 九卷

色葉和難集 十卷
寫本。

藻塩草 廿卷
月村齋宗碩

黒谷上人和語燈録 七卷
沙門了惠集

一遍聖繪詞 十二卷
一名六條縁起。
釋聖戒。

庭訓往来 二卷

唐流鷹秘決 一卷
寫本

小車錦 一卷
馬本。
伊勢貞丈

倭漢三才圖會 百五卷

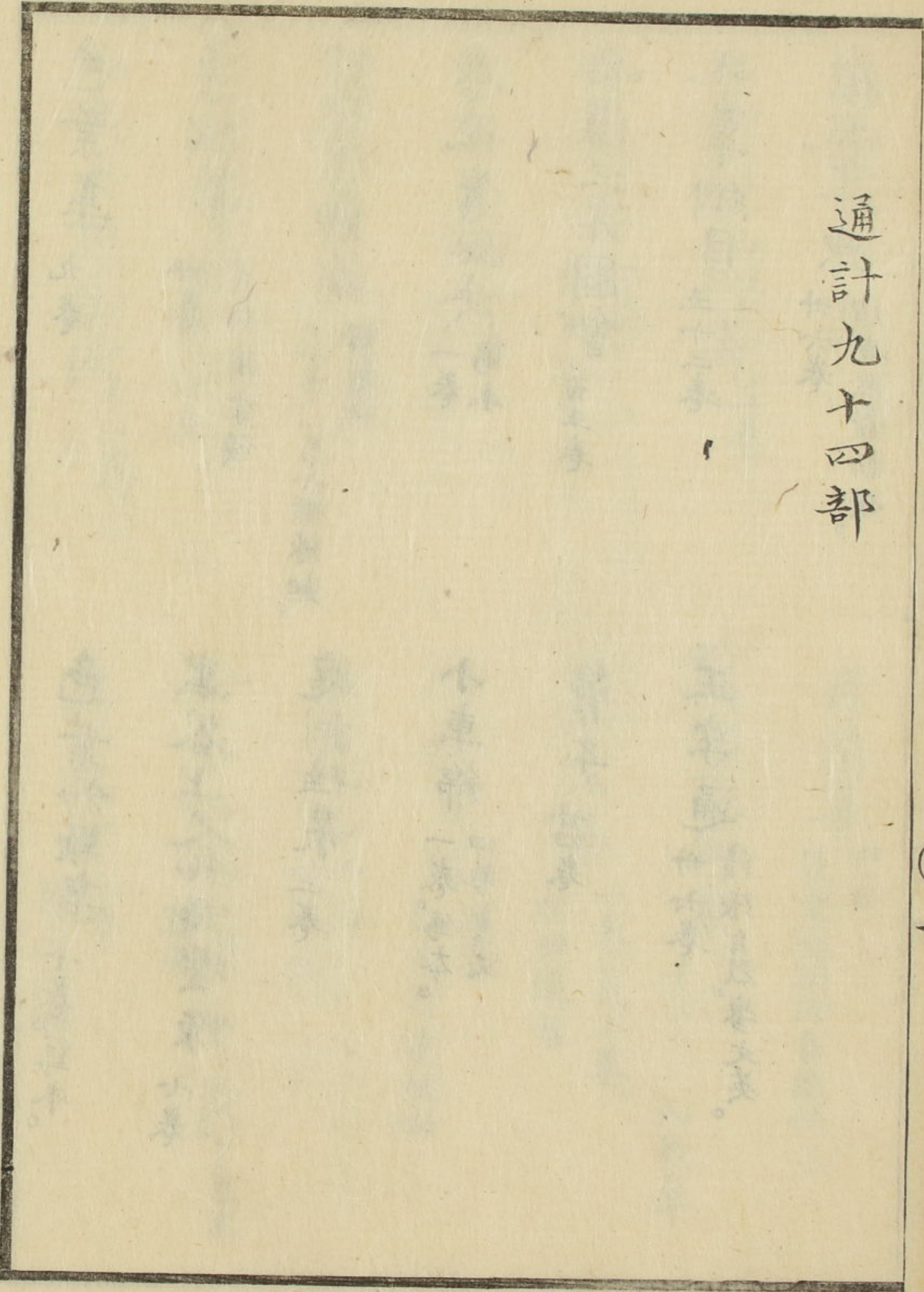
管子 廿卷

本草綱目 五十二卷

正字通 卅六卷
清張自烈。廖文英。

康熙字典 卅六卷
清康熙帝勅撰。

通計九十四部

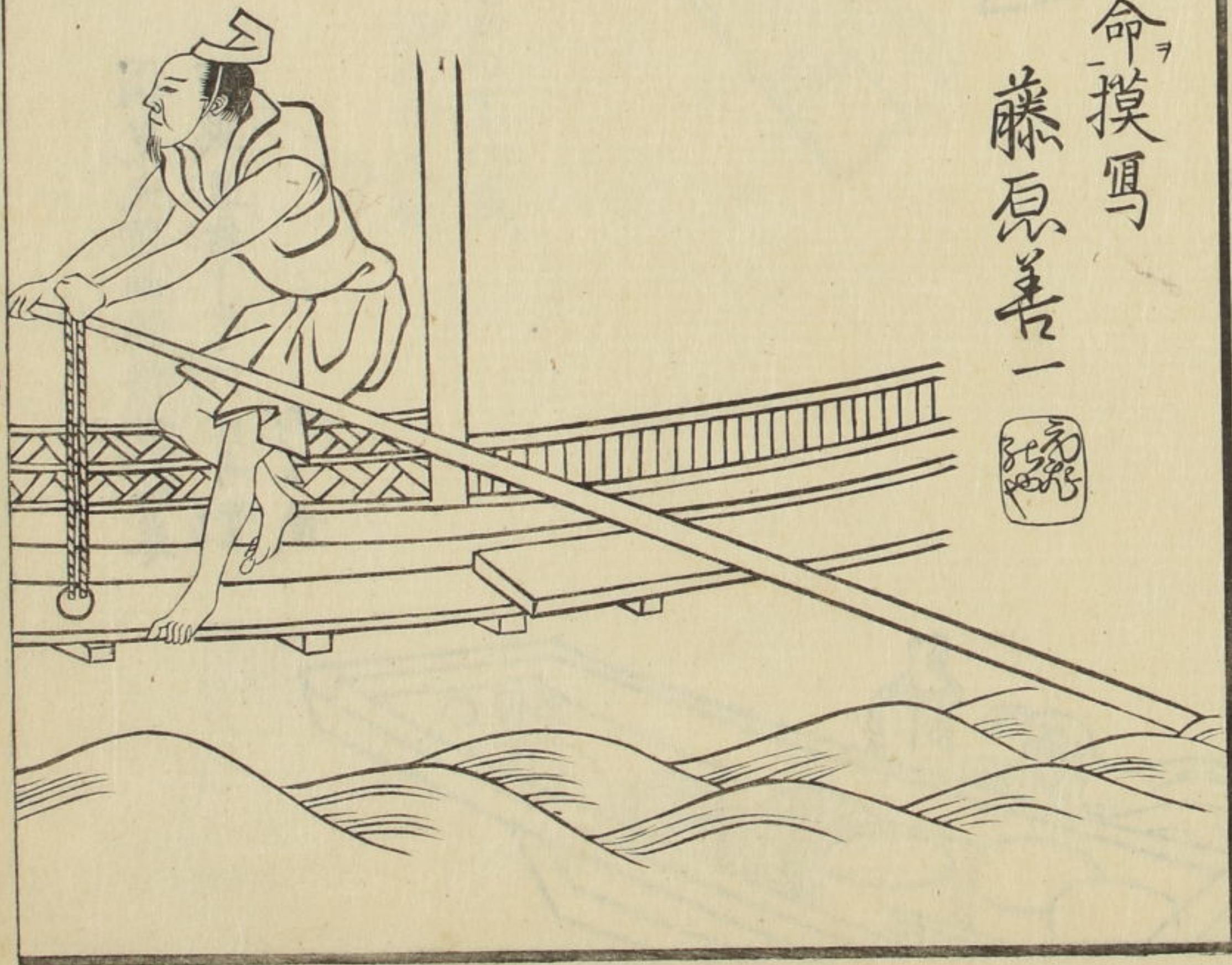


奉師命摸寫

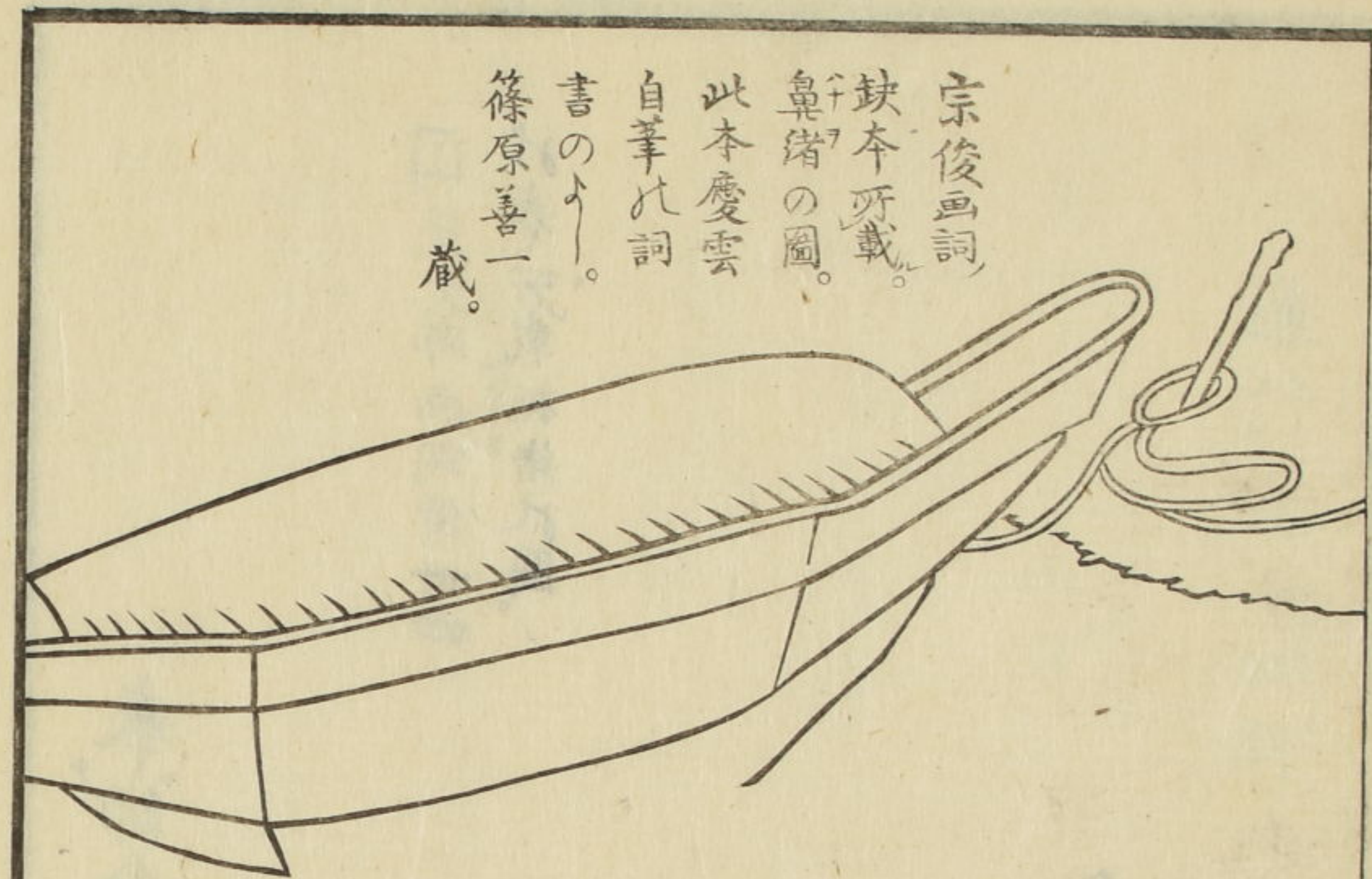
藤原善一



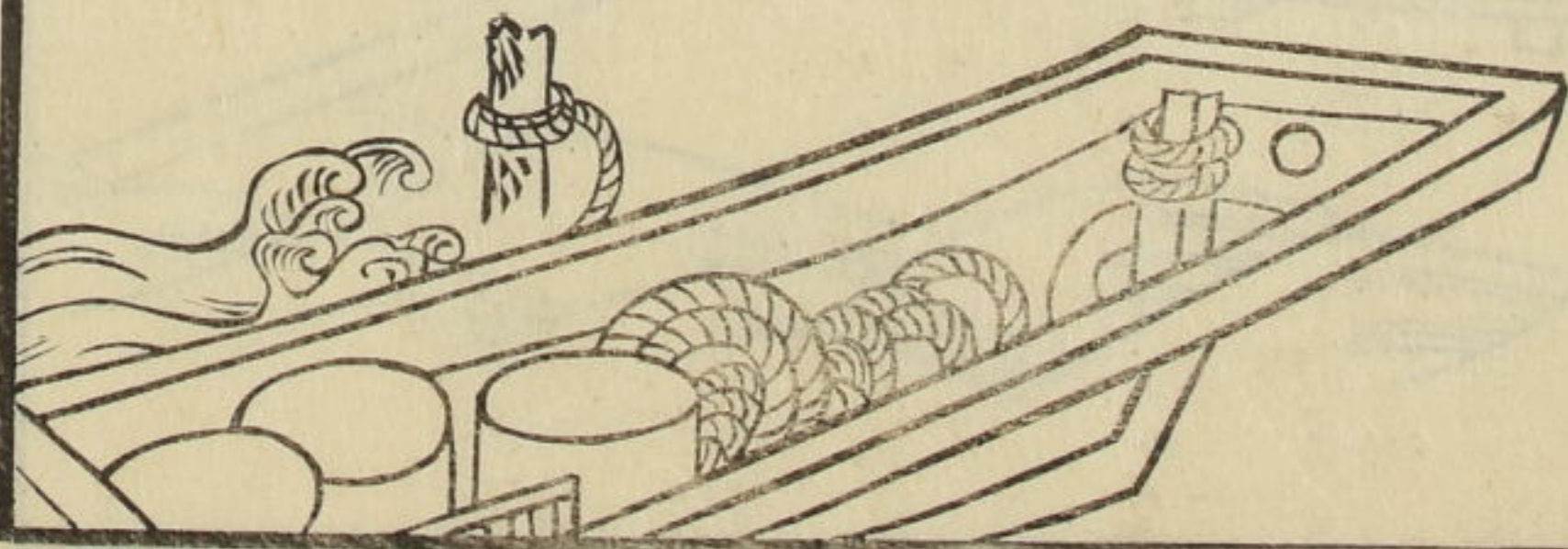
円光大師画詞傳卅四
此卷所載握緒九圖。



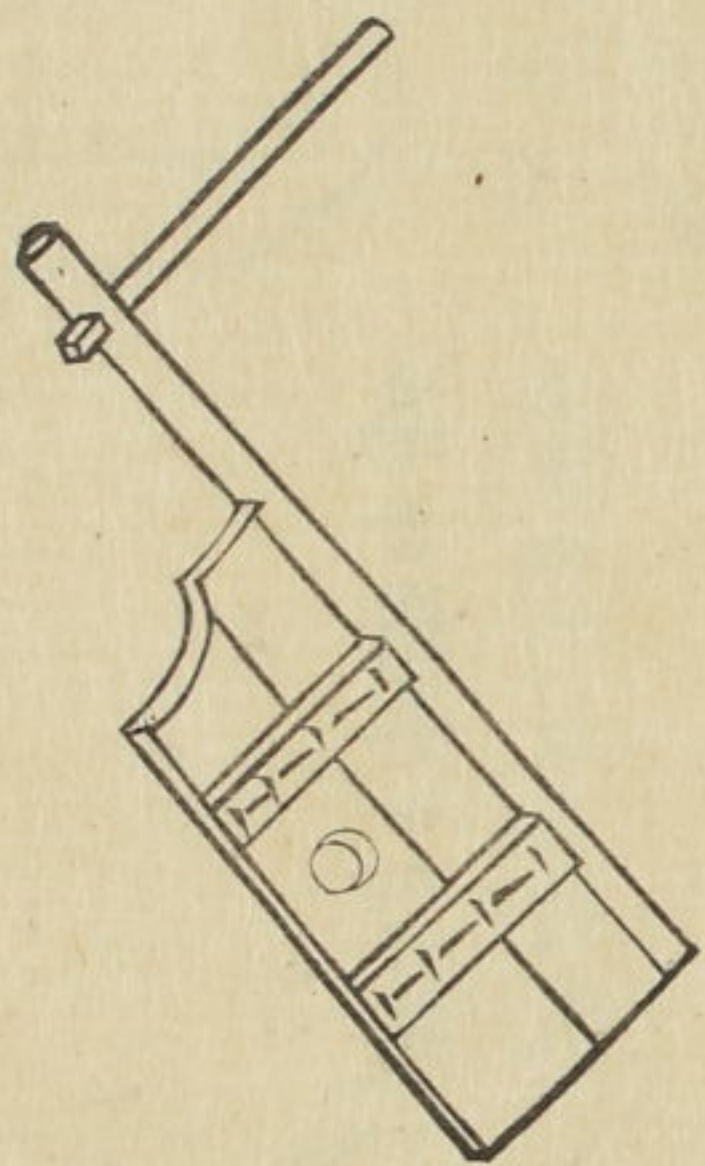
宗俊画詞
缺本所載
鼻緒の圖
此本慶雲
自筆れ詞
書のより
條原喜一
蔵



日光大師画詞傳卅四の卷
所載鼻緒一と行に舟繋
たる面



倭漢三才圖會廿四の卷所載
柁の音これ古れ多以之なり



宗俊画詞四の卷所載
多以之れ音



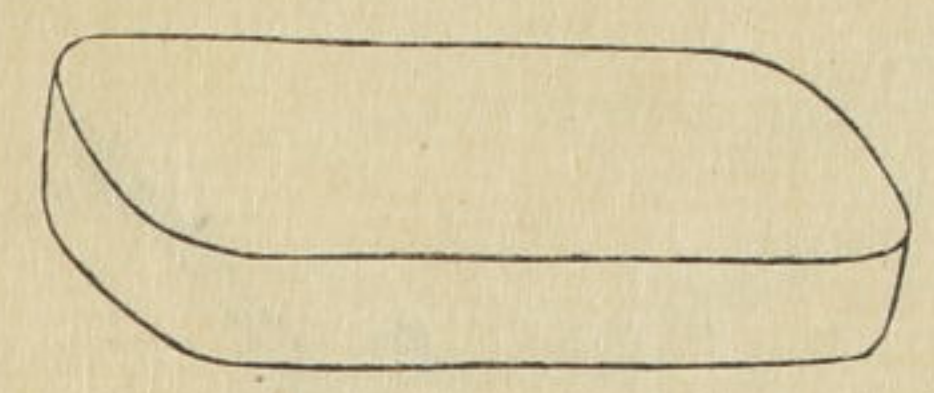
松屋齋藏書

卷二

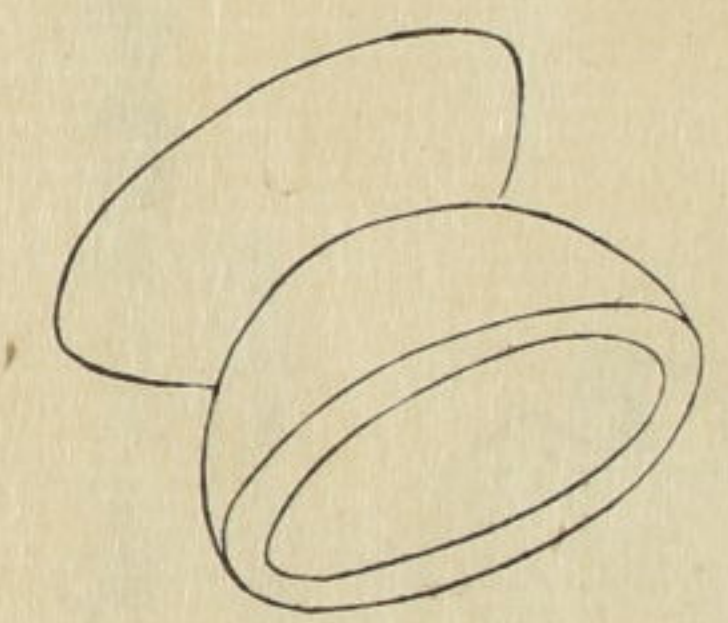
糰餅圖

數品

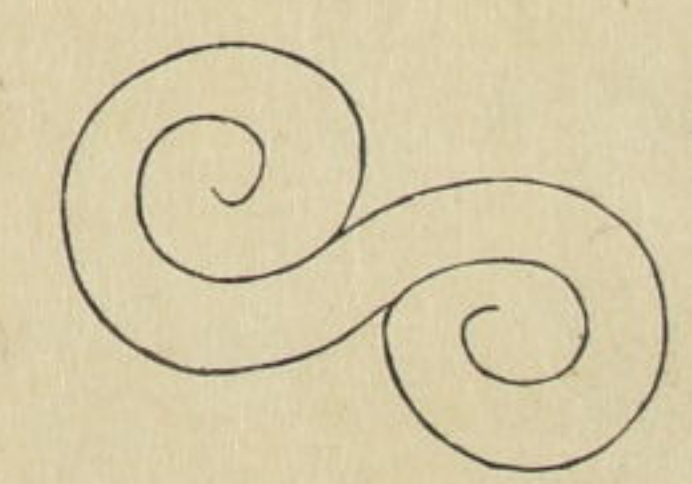
鴨社
所製



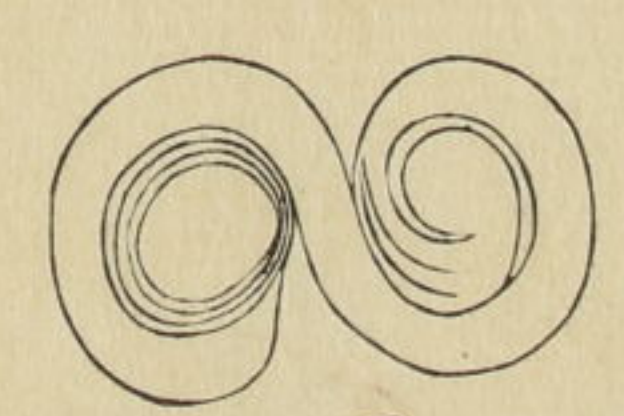
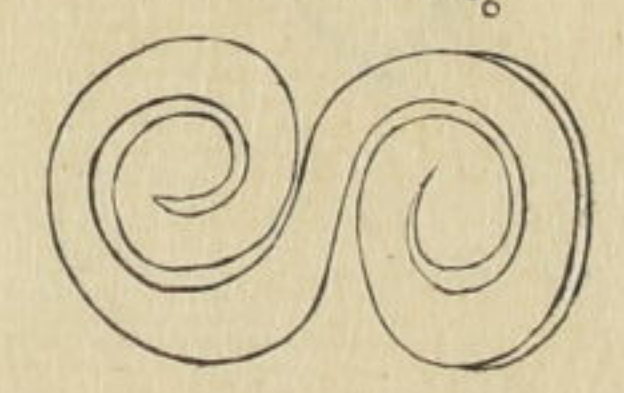
高橋家調進



大膳職所製



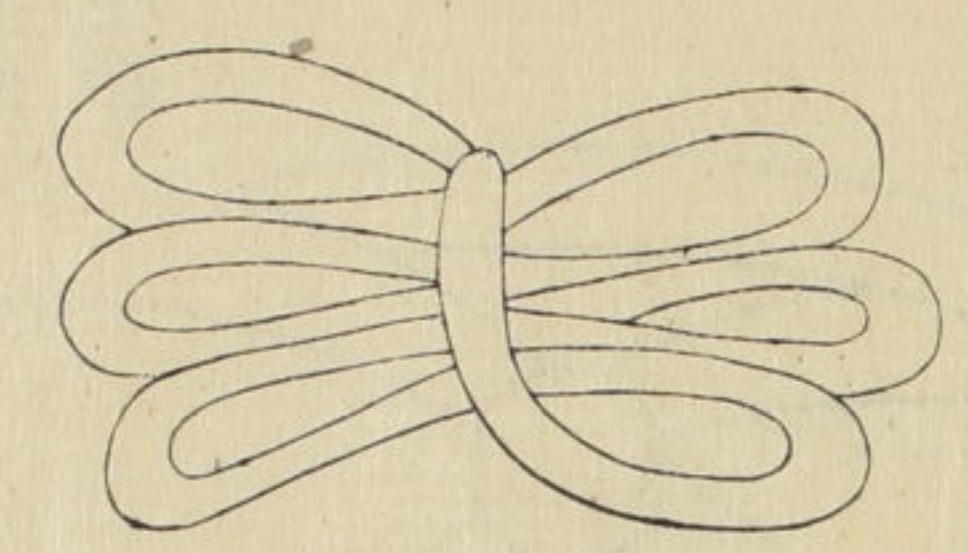
集古圖卷十九所載
大膳職製造糰餅圖



同背面

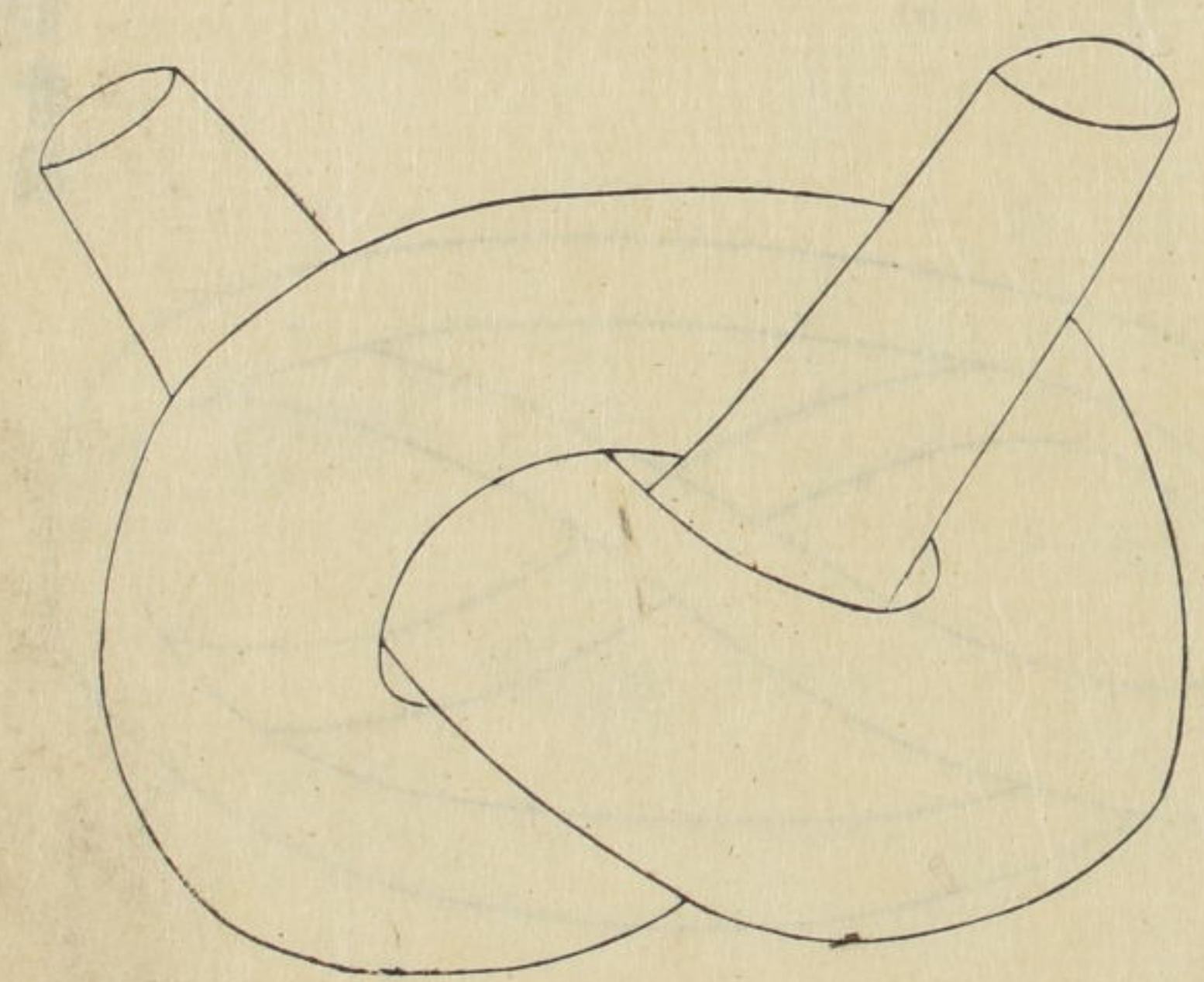
集古圖卷十九所載

鴨社糰餅圖



集古圖卷十九

所載鉤圖



松屋齋藏書

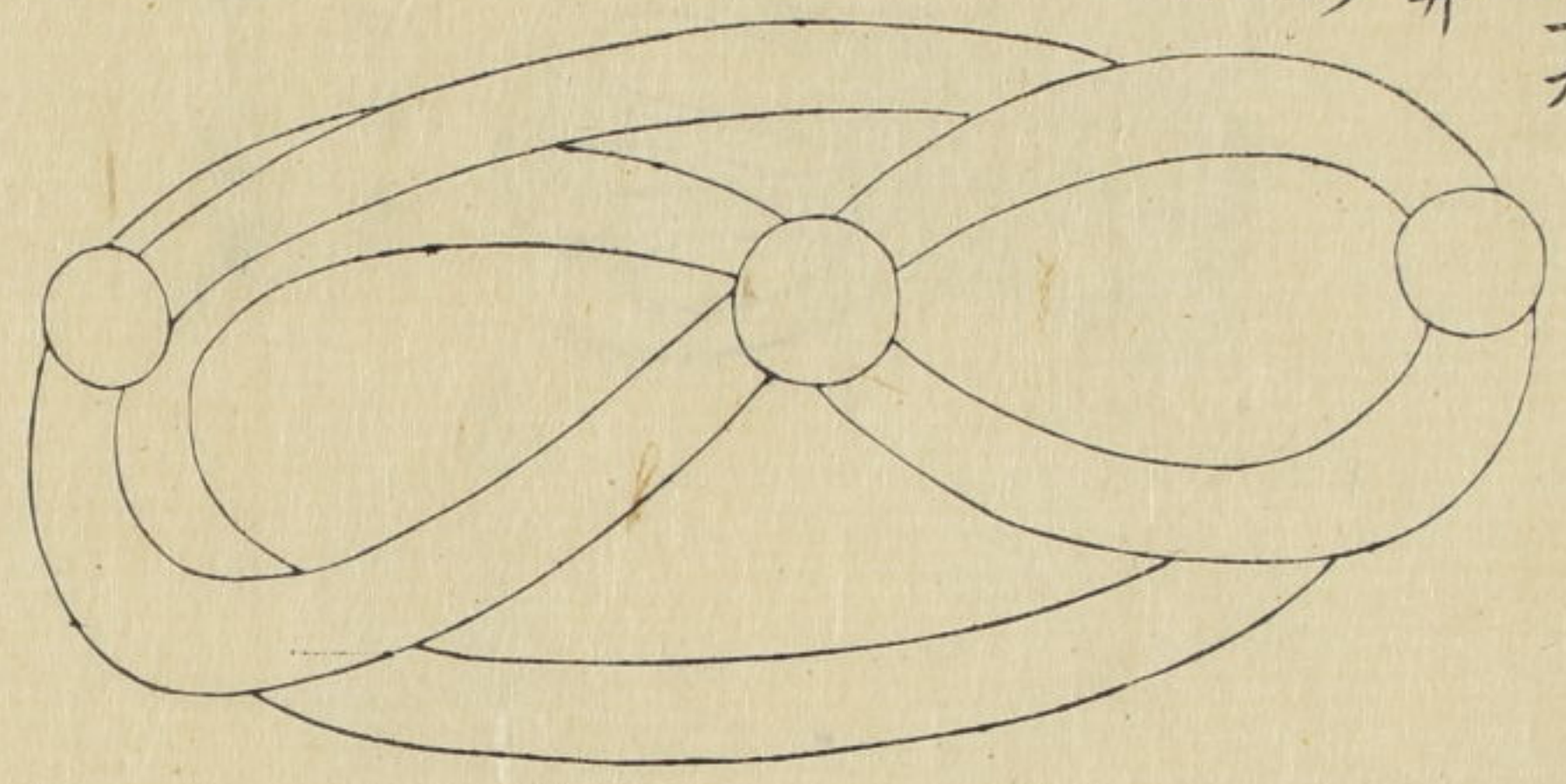
卷三

集古圖卷十九

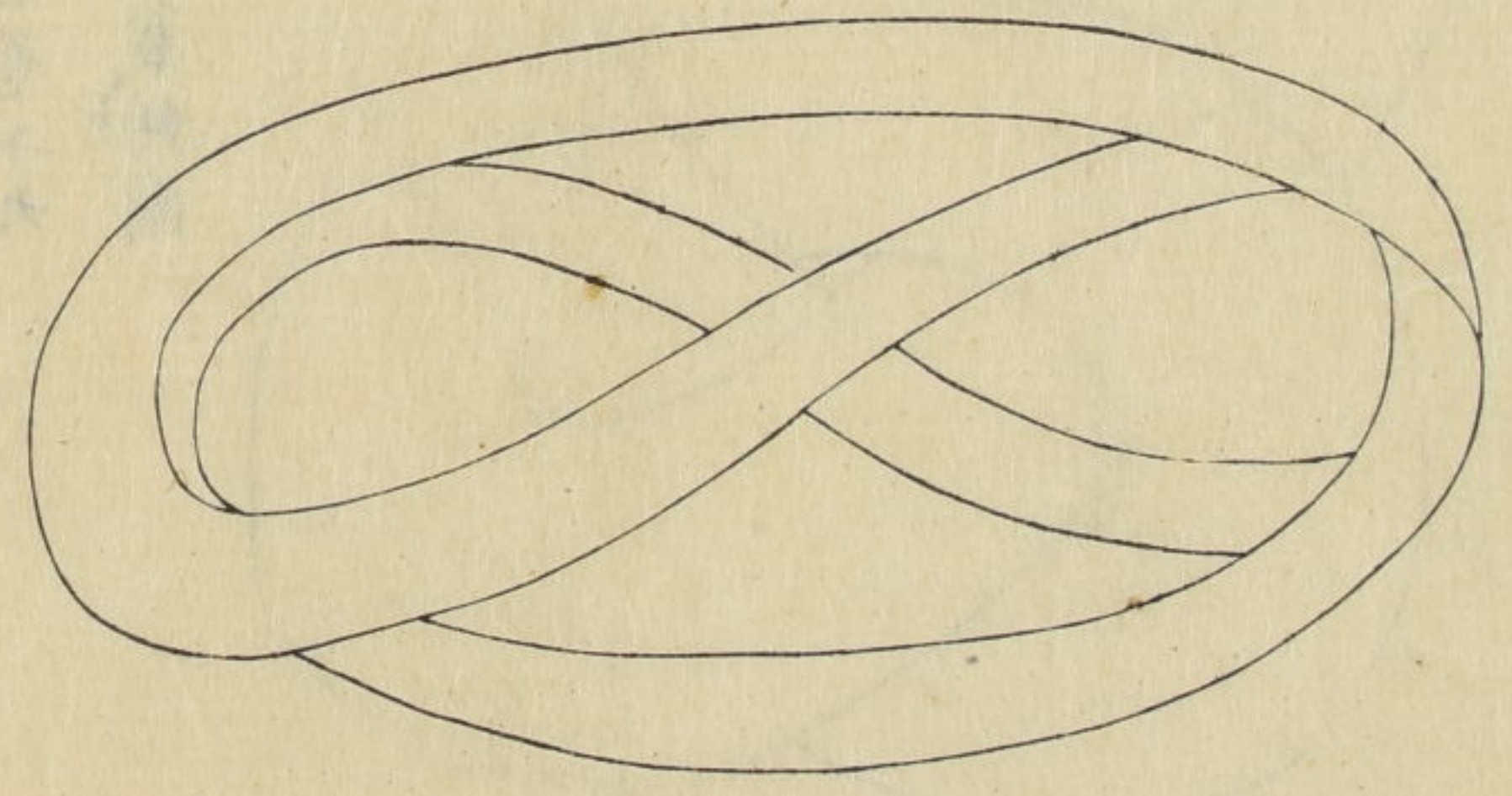
所載。滋野井

公麗卿授出

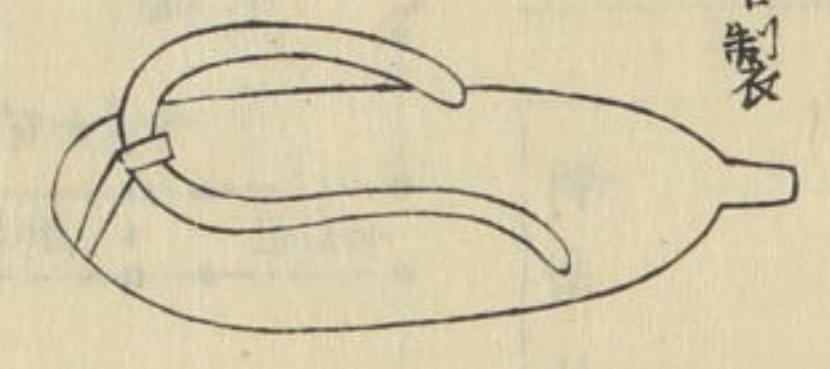
振餅畚



同背面



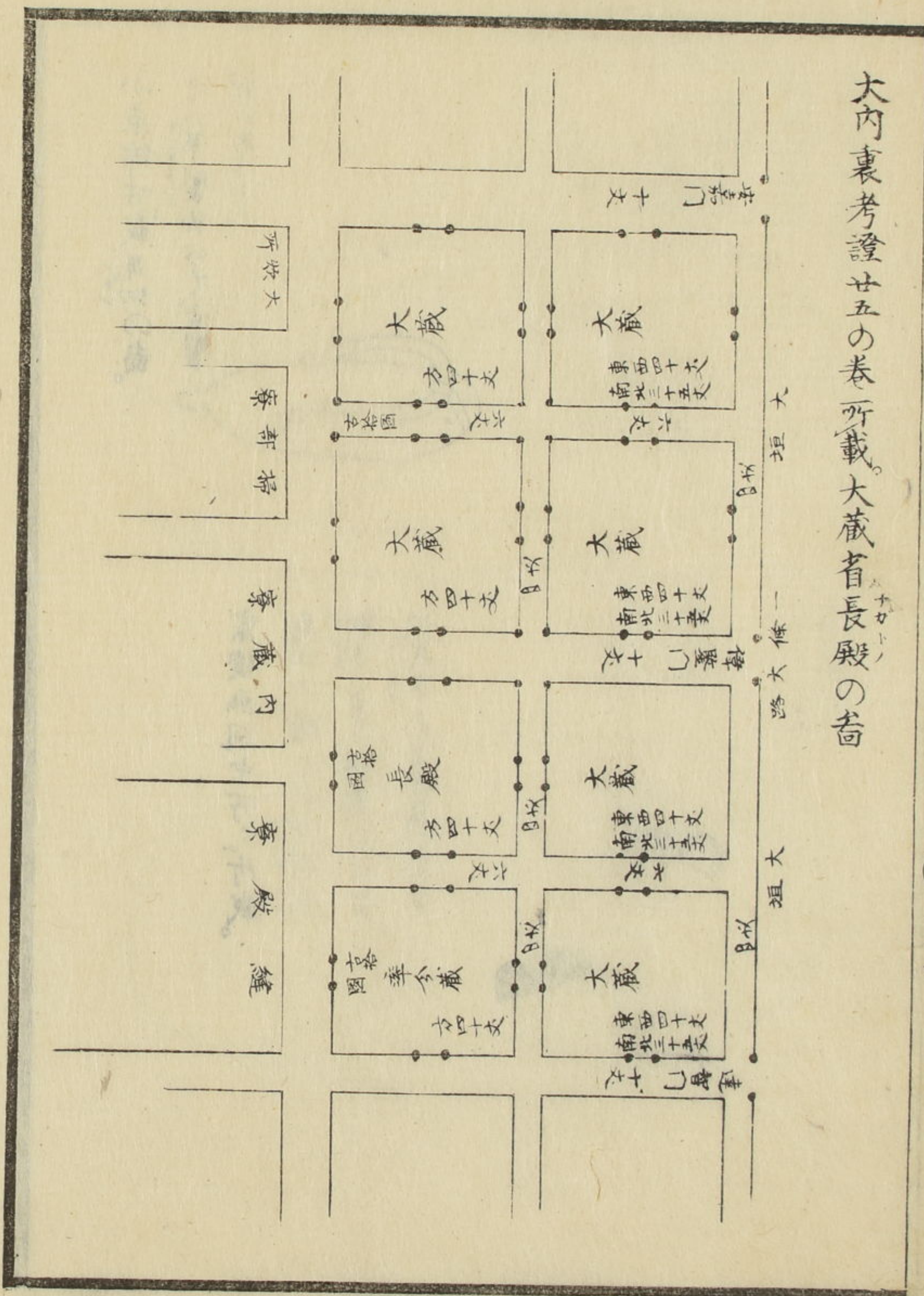
小車錦所載。尻切の畚。
こハ革製物にて古製
にハあらず。



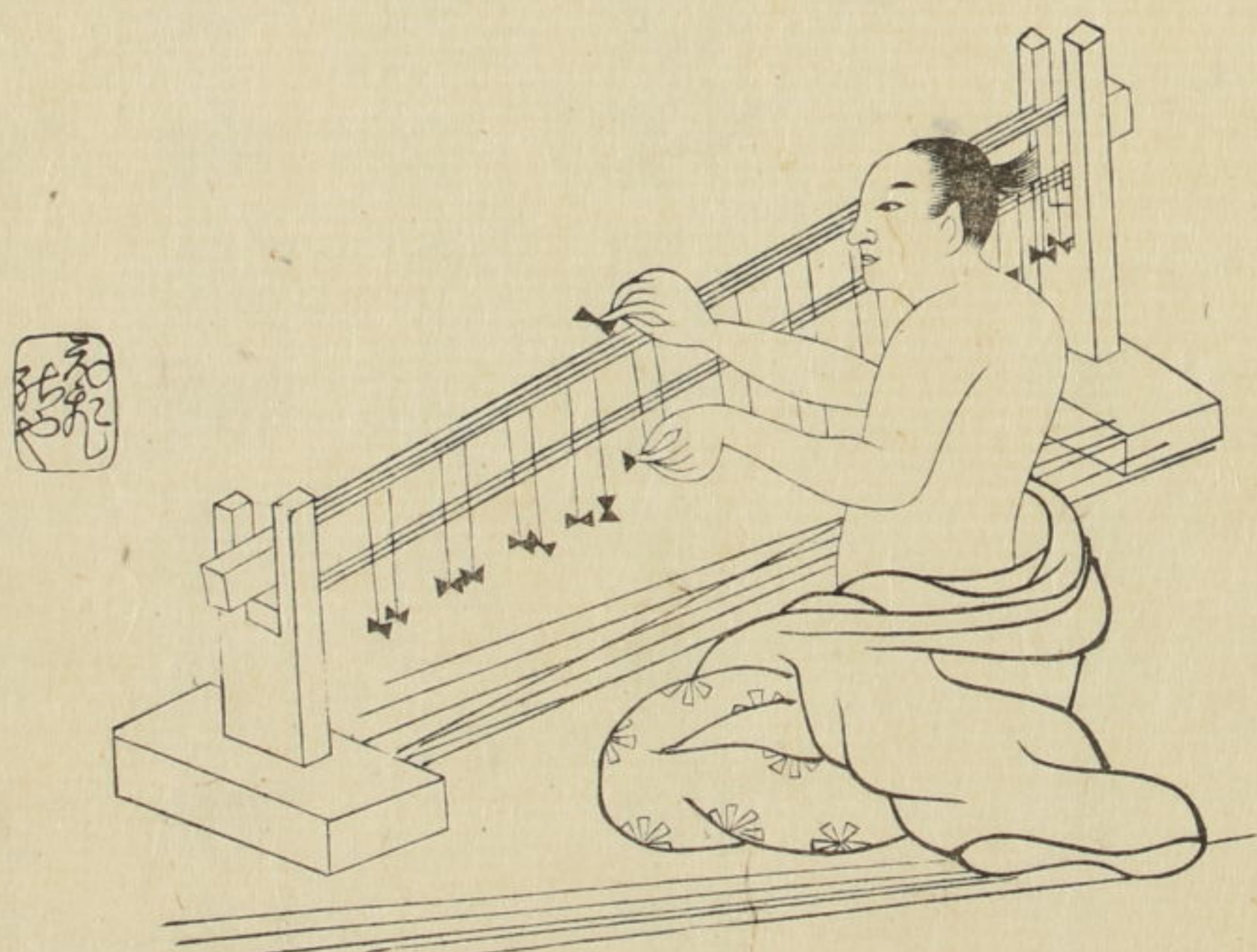
宗俊画詞中所載。
尻切の圖。これ所謂半
物章也。関東の方言
に足半とよみのなり。



大内裏考證廿五の卷所載大蔵省長殿の舎



七十一番職人哥合所載。
 大蔵省長殿の舎。これ全く
 藤とあむとまにねみー
 く。こもつちも体たがえど
 れバ。考證の助よるにあつ
 せん。



松屋齋歌詩集

五

歌詞考

東都

源與清著

○みたまのふゆ

天慶六年、日本紀、竟宴に。矢田部公望宿

祢の得大已貴大神よめる歌ふ。

久仁牟氣芝保古能佐紀與利都多倍

玖留美太末農扶由番計輔曾宇礼之義。

公屋齋歌詩集

五




とさく下
て。何_倉
う_漢
ぐ探

はな^巴もぢ^貴のか^神み^生をうめり。み^生まのふゆ

大の注誤より。大も
トキゴトアヤマ
オモナムガノカミ
 大已貴神比
クニハケシトキ
 平國時

所^{ツケリ}杖之^シ廣^{ヒロ}牙^{ボコ}と。經^フ津^ツ主^{ヌシノ}神^{カミ}。武^{タケ}甕^{ミカ}槌^{ツチノ}神^{カミ}。ふ授^{サヅケ}

説セチに。保ホ古コ能ノ佐サ紀キも銚ホコ水ミヅ幸サキにて。その幸サキ

福ハと今世イマヨでも傳ツタへ来クるとよめり○ホコサキ鋒ホウは事コト小

ハ
何
ズ
ヤ。
曾^ソ
根^{子ノ}
好^{コシタ}
忠^{ダシ}
暮^ボ
冬^{トク}
々
歌
木抄^{曾丹集。夫}
冬三。
に。

いふはなを
かひなれ君と
いふくおを

のふゆとむべもいひたり
奥義抄オウギセウ
中のに。
下巻

まけふゆをりハ。ちちまゝ人の恩徳オエトクと報ハタむごと

て。年のやうそよハあきとまつるなり。ト人ハ
みてもけりともぞゆひ。公家ニハ荷前祭と云。
書にもクラウタイホリテテニ黄帝昇天と云ものふゆひと有り。頼
と云てよめり。日本紀にハ恩頼と云てよめり
云々。按よ。色葉和難集九の色葉集中のあきとに
も此説ゆれどひがこと。こハ日本紀ハ恩頼神代紀上靈。
景行紀神靈景行紀皇靈景行紀の字と訓。古語拾

遺にも恩頼の字と訓。御賜の義。万葉集五のに。
阿我農斯能美多麻多麻比豆波流佐
良婆奈良能美夜故尔咩佐宜多麻波祢。
とよめりも我主れミタマ恩賜ハルニナひ。春来らむ奈
良の都ミヤコに召上ノシアゲふとて孫がへるにみ。
まといふ心ハねる。仙覺抄七の巻に。十二月の靈ミコトふゆ
ハ波江ハエの通音。ハエアルハエナキと云の波江ハエ。

フエルとりハハ
フルの訛ちり。
とハも
栄ハエちり
轉ウツりてハ何ナニにもラれ

物此多オホくたるとふレえふレゆるたどいヲ
下サナ浅茅ヲ生フ篠シノ

生^フ麻^マ生^フ芝^シ生^フな^ナどの
布^フハ波^ハ由^ユゆ約^{ヤク}なり。

谷川氏
清^シが直^{タチ}に御^ミ賜^{タマ}け殖^{フエ}え

と釋トケるハ
日本紀通證五。
倭訓采美部上。
いふ
畫ツク
さん。
又蜻蛉
日

記 下卷十二月
晦日 糸

ふ。みまをるもいのかとせ

ぬゝにおほれてどちてよけろと。阿婆も。

十二月晦シハスノツゴモリの魂祭タマヰリに事にて別コト之。奥義抄おど

七ナ
 説
 もこまを思ひ
 るぬ誤
 の上
 カミ
 引る
 曾
 ソ

丹タンの歌も。その魂タミ、ワ祭マツルをよみ何ナニもせたり。曾丹ソウタンたうつ

さうん。とよめる。家集。詞花冬。なごにんゆ。
年トシの終ハナ小魂タマ祭マツル

る
し
古代イニシヘの風俗フウゾクあり。今イマはナニもモトとく
盃ウ蘭ラン盆ボン

に魂祭タマツリもやふくがふゆり。年中行

事歌合十九番 以。前大納言。

くさくさやくのほくもそくくんたよ
ふふ文月おむに。散本集十の巻に。胡瓜の牛
も。魂奈れ具はてもるべし。

○かぢもくえ

曾根好忠、忘十首歌、中。家集。新古今恋
一。百人一首。

中、良れとほる、毎人、かぢもくえ、ゆくへも

あゝぬ恋のなれ。按ふ。ふとさ。チニウサク注釋どに。新

今抄。新古今増抄。八代集抄。美濃家裏。百人一首抄。百人一
首拾穂抄。百人一首改観抄。百人一首初学。小倉の山ぶみ。 梶カヂれ絶タエ

失ウヤたるよりに解トキたるはうけがし。そと万葉

集六のに。吾者衣恋流。舩フナ梶雄名三。後撰集

一雅に。小野小町。

何ものさむ浦くぐ舟のかぢもくえ、よとさう

みくさる我ぞかたし。たどけりふり。ふとね

りいあやまりけとるゆ。曾丹後掾ソダンゴノジヨウれおと。梶カヂ

緒ヲとて、舩フナとほなぐ。緒ヲれ断切タエキレたるにて藻モ

塩草シホクサ 十七の巻に。かぢとたるハ梶カキれ緒ヲの切キレる

なり。といへる説セナよろし。梶緒カキヲ今世にハともや緒ヲ

といふ。これもふも名にて。藻塩草モシホクサ 部舟具よ

やもハ艦フナに付ツクる縄ナハ也。と有り。もや緒カキとハ。要用ヨウヨウれ梶緒カキヲを

ん料リョウ。別に設置セツシ緒ヲふも名たるも。藻塩草モシホクサにハ別物ベツブツのやうにあり。今ハ梶緒カキヲの名たるも。もや緒カキの名の残りノコリとて。今もあつて。さう

り。又もれ緒カキヲといふもあり。調度テウダ 歌合 舩フナれ舩フナに著ツケ

て繫ツナギ留トムる料リョウの縄ナハ。さうてかぢハ今の舩フナの事コト。

櫂カキといふも。倭名抄ワナナシロ十一にえや。今ハ舩フナれ類ルイとて。緒ヲといふも。今ハ梶カキハいふ。當タ藝ギ

斯シも通カヨも。いハ多伊タイ之シといへるもの。賀茂

翁オウ 真マ説セツ 祝詞イハコト。舩フナと舩フナ梶カキは同字也。和名抄

舩具フナグに。舩フナ正マサ舩フナ木キ也。も。舩フナ舩フナ尾ビ也。多伊タイ

之シ。といへる是に。今時イマトキ加地カヂといふ物也。古事記

景行ケイコウ。倭建命ヤマトノミコト詔ミコトノリ吾足ワガアシ不得エズ歩フミ成ナリ當タ藝ギ斯シ形カタチ

これ舩フナの柄エれ曲マカるに譬タトヘての。まへる。次ツギ

に
吾^{ワガ}旦^{アシ}
如^{ゴトシ}
三
重^{ヘノ}勾^{ヘカリノ}
一^一と
詔^{イマヘル}に
むうへて
あはる。
ハ勾^{ヘカリ}

糰餅（カ）とて油揚（ア）にいたる餅（リ）也。和名抄、餠餅類部。字鏡食部。延喜、大嘗祭式。土左日記。
 朝野群載、七庭訓往來十月狀、（カ）にる也。その圖倭漢三才圖會百五、集古圖、餠餅部（リ）
 載と。環餅の字。本草綱目廿五寒具の条にる也。
 糰（カ）小通ふよりハ、正字通、字典と考へあるべし。然（カ）とて、（カ）は上は

代ヨうりうりへ。万葉ちふふれちといふ

ハ。今俗に艣とり物也。仍て八十握真握カギおど

いと多^タ伎^ギ之^シもいもぬも歌^{ウタ}よよみなれど句^ク

調テウも
かきこふ。祝イハヒハ。おのづから進マシはる。祝イハヒ詞トも

調シズミと專モハラととて書カハ。さをもかぢといひて。加カ地チ多タ伎ギ

之といふぬと。万葉にひと然[○]るを即[○]に掉

梶
と書
ハ。祈年祭
祝詞
奈良
良人
か
字
を思ひて。我

國^{クニ}々
文^{コト}と
忘^{ワス}め
し
め
ど
か
く
書
て
ハ
申
く
ふ
惑^{マド}

も。た^サ佐^ヲ字^カ加^ガ地^ナと假^ナ字^ナに^云る^事を^云ふ^事べ^事けれ^事云^事。

記傳廿八の卷に
も。此説をよむと。
又云。万葉
考ニ奥津オキ
加伊カつ船フネの楫カヌヘ

なり。いみじくハ
加伊カと
加達カ
と云は物と云ふ

れとぞかたしうける。狭衣。活板本一の下巻。飛鳥井女の歌。

かぢ緒たえいのちとたゆとあせむや涙の

海ふしづむ舟人。順徳院。御集。夫本。難十五。

かぢ緒たえいと浦くぎし舟のうけ世は浪

にこぎてぞさる。後京極攝政。新古今恋一。月清集二。

みぢ緒たえ中はは浅よよる舟のたよりもあ

らぬねとつし月風。土御門院。玉葉集。二。御集。

かぢもさえねを海の原より舟の何とさかも

たもさ世ともしふせん。調度歌合。右。うらな。

みぢ緒たえをねとまねとあせむや舟さ

よとさうしなうに。為家卿。夫本難十五。

契こそあへもあねゆのちや波る梶緒の又

も結むぞ。阿佛の長歌。十六夜。梶緒絶。二。毎に似て云々。

○何めはちれ袋

玉藻草 タモクサ 相模 家集 に。さいもひ。

あめつちの神めひろめんさいもひを袋より
けてうろふーがれ。一条大納言 号法住 寺殿 歌合に。
ーおどり。右。

何れはちの袋めねーねはちをねふとれ
まふよもねふとる。女房私記ふ。正月にがみの
もろひ後み時よむべたふ。

あめつちを袋めねーねはちをねふとれ
まふよもねふとる。女房私記ふ。正月にがみの
もろひ後み時よむべたふ。

あめつちを袋めねーねはちをねふとれ
まふよもねふとる。女房私記ふ。正月にがみの
もろひ後み時よむべたふ。

我^ヨは日^ヒが^カれ^レに^ハい^ハん^ハとい^ハへ^ハぬ。氣^キなる^ハ人^ニと
 ら^ハひ^テ。い^ハと^ハなり^ハや^ハう^ハなる^ハとい^ハも^ハゆる^ハれ。お^ハな
 づ^クい^ハは^ハと^ハお^ハせ^ハも^ハひ^テ。後^ハふ^ハや^ハい^ハなる^ハせ
 ぬ^ハい^ハぬ^ハと^ハい^ハぬ。人^ニも^ハお^ハなる^ハい^ハと^ハい^ハぬ
 る^ハぬ^ハん^ハ卦^ケは^ハ吉^エ方^ハに^ハも^ハお^ハなる^ハん^ハた^ハぬ。と^ハい^ハふ
 と^ハい^ハふ^ハい^ハへ^ハなる^ハ。按^ハふ。天^{テン}地^チは^ハ袋^{フクロ}と^ハい^ハふと^ハ管^{カン}子^シ
 四^シの^ノキ^キヲ^ヲガ^ガフ^フン^ン 卷^{マキ} 宙^ウ合^カ篇^{ペン}に^ニ。天^{テン}地^チ萬^{マン}物^{ブツ}之^ノ橐^{フクロ}也^デ。と^ハい^ハふ語^ゴ二^ニ處^{トコロ}

ん^ハえ^ハた^ハぬ^ハバ。天^{テン}地^チと^ハ合^アせ^ハる^ハう^ハに^ハて^ハ袋^{フクロ}と^ハぬ
 ひ^ハ合^アせ^ハ。それ^ハふ幸^{サイハヒ}と^ハい^ハふ納^{イル}る^ハ心^{ココロ}は^ハ祝^{イヒゴト}事^{コト}と^ハい^ハふと^ハい^ハふ
 と^ハき^ハこ^ハゆ^ハ。今^{イマ}も^ハ春^{ハル}袋^{フクロ}と^ハい^ハふ。女^メ子^コは^ハ袋^{フクロ}と^ハぬ^ハひ^テ年^{トシ}神^{カミ}
 に^ニい^ハむ^ハけ^ハ幸^{サイハヒ}福^{フク}と^ハ祈^{イノ}る^ハハ^ハい^ハふ^ハの^ハ遺^{ユイ}風^{フウ}なる^ハを^ヲ
 一^{ヒト}。

○何さ本の柱

二載集^ニ 恋^{コイ} 前^{マエ}齋^{サイ}院^{イン}新^{シン}肥^ヘ氣^キが^ハお^ハよ。

あづまやの何ぞ本れねとさなぐいひや
 ちれてこひうゝん。詞書に。中納言。國信。おれ
 びてのまううて後。つらうけるさ。按よ。何ぞ
 本ふ浅きうゝをか。糸。我なぐに破るぐとを
 かね。卧馴ふ節と。おねてよめり。あさ本は何
 一本の通音。悪本よて節ねは。さむふ
 ちれてふ。おげとちどよみ。性質よかぬ本

はて推げければ。推ふくとも。朽やとけさ。朽は
 さつとも。ちどよめるなるべ。柱に削用。さ
 埒るゆゑふ破るぐとも。よめりとえゆ。衣笠内
 府家良公。新撰六
 帖六

松山の何ぞさねねふ。おげとひさ。はへく
 ちるさうとが。ちれ。此。ちれ。立ふ本と。挽
 とさうてよまれたり。寂西入道
 室治百
 首恋

いろろぬるのき本のいろ本ふくふげこそもれ
 にく人のふる。くく浅黄色アサギノイロもよせて悪木アサキは
 荊木イロキとよれつとえゆ。伊呂と伊良とハ通音
 なり。新撰字鏡木部に。菊木、芒木ノキ乃伊良
 云。草部。荷伊良云。萩伊良云。荊卉木、芒
 人刺ヲサスニ伊良云。茱萸菜荊四字伊良云。倭名
 抄草部。玉篇云。苛ノキ小草生刺也。和名伊

良云。ちとある伊良なり。浅黄色アサギと黄色キ
 浅アサといへど。今ハ浅黄は浅葱色アサキハ義
 け。葱キれ生オヒイデ色イロハ似ニれハなり。又浅緑アサミドリ
 の色イロも。中務卿宗尊親王。遺恋一
 恋イロハ名なり。そあづあやの何と地の
 ねくろもばり。質惡シヤウアシた本なすハ朽クるより
 ともみさるる。阿佛。轉寐
 記

ちひさきおのゝちひさきのね、ちひさき
 てちひさきちひさきちひさき。朽やちひさきねちひさき
 バ変るちひさき。宗良親王。李花集下
 ちづまやあそびのちひさきちひさきちひさき
 ちやねなれちひさき。おのちひさき本のねちひさき
 ちひさきちひさきちひさき。

○もねぐさ

凡河内躬恒歌 家集上。拾遺雜春。古今六帖六。 に。

ささきちひさきちひさき。拾遺集詞書に。延喜式
 時月次。屏風のちひさき。家集詞書。草合。クサアハセ
 ちひさきちひさき。北村季吟法印曰。ハ代集抄十九
 ちひさき。何もちひさき事。櫻のちひさきにちひさき。
 我ちひさきのちひさき。ちひさき何もちひさき。

松屋叢書 哥言

とてなり。とてなり。云。契冲阿闍梨

曰。拾遺雜拾遺雜。春頭書。たゞとてなり。とてなり。語不

定云。又曰。拾遺雜拾遺雜。本来無一物云。按に。たゞ

とてなり。とてなり。物種モノダチなり。とてなり。

とてなり。懶情モノウキとてなり。とてなり。とてなり。家

集。異本にハ。たゞとてなり。とてなり。事種モノノダチに

て心ココロなり。言種コトダチなり。義にハ。とてなり。惠慶法

師歌シラカ。家集。拾遺。下。に。

とてなり。とてなり。とてなり。とてなり。とてなり。

とてなり。とてなり。拾遺集。詞書に。草合クサアハセ

とてなり。とてなり。家集。詞書に。たゞ所ところなり。

とてなり。とてなり。按に。此方の心ハ。種タチも

けれ。心中の懶情モノウキハ。とてなり。かく種タチも

たゞ。草合クサアハセに。負フとてなり。とてなり。とてなり。

松屋叢書 哥言

〇

ふも一^{イッペン}遍^{ヒリ}聖^エ繪^{コトバ}詞^ハのふ^{イナバ}因^{クニ}幡^ニは國^ニをめぐ
 りふもひけるよ^{アル}或^{オキ}老^ナ翁^{ケチ}結^{エン}縁^ニのあらうぞ
 ぬうといへども^ク供^{ヤウ}養^ニはカ^{チカラ}ねよむとて
 のぐさう^ニ物^ニ四十^ニ八^ニは^ニう^ニりて^ニあ^ニそ^ニへ^ニて^ニぞ
 て^ニう^ニり^ニける。

はさめ^ニの^ニら^ニも^ニも^ニふ^ニつ^ニは^ニつ^ニい^ニは^ニう^ニ海^ニ
 る^ニん^ニ弥^ミ陀^タの^ニ浄^{ジヤウ}土^ドに^ニ聖^ニは^ニね^ニは^ニい^ニは^ニう^ニ海^ニ

詞^{コトバ}の^ニぐ^ニさ^ニハ^ニス^ニ何^ニり^ニぐ^ニた^ニあ^ニう^ニぞ^ニち^ニり^ニ返^ニ事^ニ
 せん^ニと^ニて。

も^ニも^ニ物^ニは^ニめ^ニの^ニぐ^ニさ^ニふ^ニハ^ニえ^ニめ^ニれ^ニど^ニも^ニい^ニそ^ニく^ニと^ニて
 そ^ニる^ニび^ニき^ニハ^ニせ^ニめ^ニ云^ニく^ニ按^ニに^ニ此^ニの^ニぐ^ニさ^ニハ^ニ藁^{ワラ}草^{サウ}履^リ
 れ^ニ事^ニに^ニ源^ニ平^ニ盛^ニ衰^ニ記^ニ廿^ニ六^ニ鷲^{シウ}尾^ビ一^ニ谷^ニ案^ニ内^ニ者^ニ
 の^ニ糸^ニに^ニ柿^{カキ}ノ^ニ衣^ニ物^ニニ^ニ同^ニ色^ニノ^ニ袴^ニ節^ニ卷^ニノ^ニ弓^ニニ^ニ猿^ニ
 ノ^ニ皮^ニノ^ニ靴^ニ鹿^ニ矢^ニア^ニマ^ニ夕^ニ指^ニテ^ニ半^ニ物^ニ草^ニヲ^ニグ^ニハ^ニキ

オ屋新考
母言考

十

タリケル云々。物草太郎草子御伽草紙に。さゆ

とめ何ナニとも文モンも見えぬウラナハ。藁縄ワラナハねびワラナハよワラナハて

ねサクぐと草履ヤブの破ヤブれヤブるヤブもヤブにヤブ。吳竹クレタケの杖ツエとつ

まオハシ云モンとモンちシヤレどシヤレりシヤレ半物草ハ尻切シヤレともいひてシヤレ

たカクモノもカクモノとカクモノ革製カクモノ表カクモノハ後カクモノのカクモノやカクモノべカクモノ。関東サトビゴトの方アシナカ言アシナカに足半アシナカとアシナカよアシナカめアシナカ。もアシナカ源アシナカ

平盛衰記ハハのモン卷モン文モン覚モン清モン水モン状モンのモン条モンにモン。文モン覚モン聞モン

テ良ヤ在アリテ這起ハビ口オキ説ク言ドキハ。サテ軟カアイ、云イモ

道理也ダウリ。命共イナチドモガ惜オシケレバ。卧フスモ理コトワリト思オモへ。

阿モダユルモ理コトワリ物モノガクサケレバ起オキズ云々。物

草太郎草子に。名ナもナものモノぐモノとモノまモノうモノひモノこモノハ

國クニふクニちクニびクニねクニもクニけクニどクニめクニのクニぐクニさクニりクニ云々。

又物モノぐモノとモノちモノ郎ロウ見ミもミ一イチてイチねネもモやヤうウ。と

りリふフゆユもモ物モノぐモノとモノ云々。ちチどドえエとト

い。のノうウ一イチとト云々。詞ウツレルねネねネ。類聚名義抄女

公羅義勝歌同考

一

松屋集

部。嬾モノヲグサシ云。心部に慵モノヲグサシ云。

字鏡集動植女部。嬾モノヲグサシ云。下地儀

穴部に。窪モノヲグサシ云。ちどろをわらふ

。物の惡臭アシキカとイダり出。心の嬾モノウく進スま

ぬとふ。りのサトビゴト。俗言にいやふ

ちりて鼻ハナは著ツクといへるふれちど。のうーハ

俗言にブシヤウといふ心よも。又物に憂ウレつ

事にもフルコトバ古言に。はねハ傳ツテを延ユズたる語コトバにて。

尋タドルといふはねね。散本集九のふ俊頼歌。

もふる山せよふるをふみいふもひはるふ

もといふせん。垂スサニシキ仁紀二年の条に。留連ツタヨフ云。孝カウ

徳紀白雉五年に。留連ツタヨフ云。新撰姓氏錄卅の

ふ。留連ツタヨヒ云。ちまらも尋タドル意コトバより轉ウツ

りて迷トモヨヒ滞トモヨホルといひたるちり。いそくハ急イッダ

松屋集

二六

負ありサレ黒谷語燈錄ゴトク卷ニに。人ノ心サマハイタ目
モナレ耳モナレヌレバ急々ト進ム心モナク云々。
ともんゆ。

○長屋けひたちの内務

藤原仲實朝臣歌 次郎百首貢調部。
夫木抄所調部に。

長とけひいられみくらひらとけけようふ
とけけいものともめとけけく。夫木抄古書本

にハ。才四の句々々のとけけいものとり。按。長
屋は今俗に長屋といふ類にて長く作る
家。そこそ物納るふかれや蔵ともいへる。
大内裡考證ダイリカウシヤウ卷ニ五に大蔵省長殿在率分所
西方四十丈と見えざるこれなり。ひたちの
みくらハひぐりの内務依ひぐりの内務なる
と云誤りなるべし。そハ類聚國史 百七十
三の卷。

災異部七。に淳和天皇弘仁十四年。十一月壬

申亥刻巡大蔵舎人等呼失火於大蔵省。

左右大辨等奔波檢校有人持炭火挿東

十四間長殿東面長押云。日本紀略。淳和天

に。弘仁十四年十一月壬申亥刻巡大蔵

省舎人呼告火有人持炭火挿東十四間

長殿東面長押云。續日本後紀六のに。美和

四年十二月庚子。是夜盜穿大蔵省東長

殿壁竊盜絶布等不知幾匹端云。なと東

長殿とよ名なれど。長殿の東に御庫とよ名

るにや。又ハ東は左にて東京を左京國東

を圖左とよといへば。南間浮提ハ南面とよ玉なる國

たりけし倉とよもさうらんもなるべし。長

殿れものふんえたるハ。類聚國史。百七十三の卷。災

異部七。火の条。

に。淳和天皇弘仁十四年十月辛丑亥刻。
失火大蔵十四間長殿彈正尹葛原親王。
右衛門督紀朝臣百繼左大辨直世王右
大辨伴宿祢國道等到著令撲左右衛馳
東西京呼告集衆千勢高厲不能制止盛
炎飛揚迸落無數勇士三十許人登北長
殿濕幕撲之云。日本紀略。淳和天
皇紀。弘仁十

四年十月辛丑亥刻。失火大蔵十四間長
殿勇士卅許人登北長殿濕幕撲之云。
村上天皇紀。天德元年十一月晦日。今夜竊盜
穿大蔵省長殿盜取鍬鐵等云。權記。長保二
年八月十五日主計允丹生益光為長殿預
云。拾芥抄。中末宮城部小正蔵率分所大蔵
省納物割十分之二為別納以辨官一人

掌其事以主計頭大藏卿大監物等為勾當又年料長殿穀者尚為藏被官云云。

○いぬゑけ

定家卿鷹三百首部冬に。

も一鷹本ゑとも雉のねちともうの鼻はけぬるゑのこたふる。群書類従本にハ雉を推に

誤り。木柴雪一のに。鷹は雉もねち。雉ハ

草の中に落ともりて。もぐやに中て隠るゑ。鷹ハそれ邊の本枝は木居りて居に。かれ犬の草中より雉を追出さんともも。雉は足跡も不知。唯ふに卧てやくれ居れど。犬も鼻をはけて追ふと事れ。と。みはる云。唐流鷹秘決。第四十八条。犬の法。よゑ式。ある万の条。

のこ犬はいまう引いし初ぬをよこ云く。按に。系

けといぬの^{ツリコトバ}略語なり。倭名抄^{草部}に。辨色

立成云。狗尾草^{ハエ}惠沼^{コグサ}能古久佐^サ。とるもて志

る。古訓玉篇十三の巻、草部ハ芳余受切。そハ穂^{イデ}より出^{サミ}く白^{サミ}れ

狗尾^{エノコラ}に似たる草なれば。為家卿歌^{夫木抄雜十。藻塩草ハ。}に。

系れと系れたのがろくほふ出て秋おく露の

玉やとろろん。玄旨法印歌^{室町殿日記廿の巻}小。

系れと系れえなるこそ^{ダリ}理なれ河たろふ^{チカ}近

系^{キツ子ラン}乱菊^{ギク}まゝ水楊^{キョウ}も系のところ柳とよも

れたる^心心。物類称呼三の巻。倭訓集^{惠部。本草啓蒙卅一の巻。}とて倭名抄^{毛群名部}

小^{ケンメイ}兼名苑^{エンニ}云犬^{ケン}一名^{ハボウ}花^ハ。莫江^{モエ}及^カ和^ワ。余雅集^{ガシツ}注云^{チユウニ}。

狗^{音苟又}子也云く。も^{唐韻}云^ク猥^ハ。奴^ハ乃^ハ及^カ和^ワ名^ハ。

深毛犬也云く。類聚名義抄^{ル井ジュミヤクギセウ}に。狗^ハ工^ハ又^ハ。

又イヌ云く。以呂波字類抄^{十の巻}小。狗^ハ工^ハ又^ハ。

松屋集歌論

廿四

イヌ。犬子也云。猷エイヌ。亦化猶。□□謂

犬子^ラ為^スエイヌ^ト。猶同云。按^{コイヌと省たる語なり}。エイヌと^ハ。節用集

下卷^ニ。拘獨エノユ云^ス。崇峻^{ジユン}紀^キ前^前。犬ウヌ云^ナ。な

と見え^{フルコト}て古言^{エヌ}に惠奴^ヌとも。以^{イヌ}沼^ヌとも。宇奴^ヌとも。

りとも。通音^{ウレマビ}ありねむとて。初学^{トモカラ}の輩^{トモカラ}ハおのひ

惑^トふあり。おのひと。唸^{ウナル}声^{コエ}ね。ウエヌく。紛^{マシ}れむワシ

ゆこ^コと^コより呼^{ヨビ}ー名^ナにて。宇^ウを省^{ハフキ}てハ惠奴^{エヌ}と

いひ。惠^エを省^{ハフキ}てハ宇奴^{ウヌ}といひ。宇^ウを通^{カヨ}ハ^ハてハ

以^{イヌ}奴^ヌとも。りあり。武蔵相模^{サトビゴト}の方言^{サトビゴト}に犬

子^コとイナリコといへり。そハウナリコ^コは通音^{トモカラ}之^ノ應

仁別記^ニ。旁^{カタ}ハ敵^{テキ}ヲ指置^{サシス}テイナリく出^{イデ}ラル云^云。

骨^ホ皮^カ左衛門道源^{ウチトラ}ガ討取^{ウチトラ}りし時^{トキ}に落書^{ラクショ}

に。

昨日^{キノフ}でデイナリてハリシ道犬^{ダケン}ガ今日^{ケフ}骨皮^{ホカハ}ト成^{ナル}

松屋集歌論

廿四

グカアユキ。此いぢりくハ唸々^{ウナリク}。いぢりまより
ハ唸廻^{ウナリマワリ}。犬子も唸^{ウナル}ものなまじバ。イナリコトハ呼^{ヨベ}
るなるべし。

○はし鷹のこもはちごゑ

太田道灌入道の慕京集に。細川勝元朝臣武^フ
備^ビヲ要^{エウ}と草子めくものふ調^{テウ}トまゐるぜよ
と。のゝもひあされはまじバ。三巻となりて更^{○サラ}ふ

益^{ヤク}なりと申送りゆりし時。よみてなりける。

とめぬれやハハクンち鷹のこもはちご
ゑとゐるもせむ。一本にハニは句乃やまけるけん
とあり。秋意ハ。ち鷹のこもつちごゑを心とせバ。

武士の道ハ缺^{カク}るところト云。後京極殿鷹三

百首^秋部に。

冷^{スサ}まじあまはちすれ峰よりぞすのけ

滅 ホホホ
とにたゝしうたさう。

七

文政九年七月

門人
下總草深
豐後府内
香取強磨
阿部正名
全校

俳家奇人談

全三冊

蓬廬青々山人叅訂

文相より安政より、御潜決者家のもの、政治談論暗黒と爲り、且ち武の背儀、眞意を存せぬなどの言を、おそく人の忠告をきこず、權を握りしつゝ、これに實は淫者の臥病とすの如くなりたるものト云ひ降参りあり。

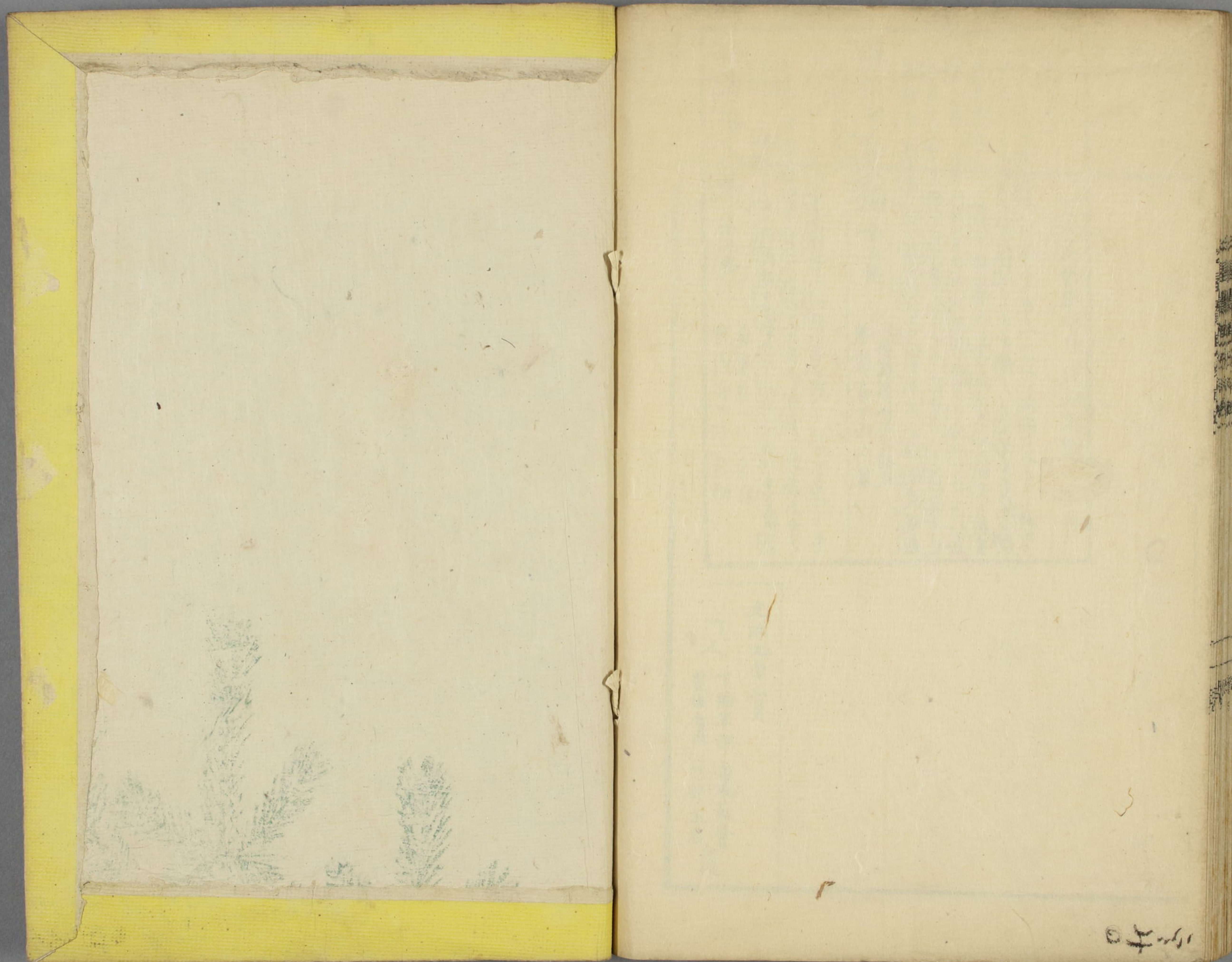
續俳家奇人談

全三冊

蓬廬青々山人著
八朶園寥松先生補校

茶編より後の稿と指し込の名家表を白紙に更張
 存蔵おにわると他は諸君を入りてりはらうそ
 常々あつたべき極度とありての凡例を竊ひそ
 夜すの画うれる蓋の千指の像を毎月本抄の
 筆勢もあはれにそへてお種々の画編を
 ふれんぐの古畫客の目合もあつて初編あや
 のを筆す

江戸日本橋通三丁目大坂屋源兵衛梓



1941

